

10/25・26 【おおはしひろば】

市の中心部と人吉城方面を結ぶ大橋を車両通行止めにし、橋の上を一つの広場として楽しむ「おおはしひろば」を10月25・26日に実施しました。まちの人たちが20の"自分たちの楽しみ方"を持ち寄り、それぞれの過ごし方を実践。橋の上に、にぎわいと温かい空間が広がりました。



トークイベントやたき火などを試した

10/26 【復興人吉まちなかフットパス】

清流・球磨川のせせらぎを聞きながら相良700年の歴史をたどる「第2回復興人吉まちなかフットパス」が開催され、参加者はまちの魅力を再発見するひとときを過ごしました。地元住民でつくる団体「フットパス相良路」が企画したもので、市内外から約30人が参加。旧市役所跡（麓町）を出発し、人吉城歴史館や城見庭園などを巡り、文化財や復興の様子を眺めながら約3.5キロを歩きました。



歩きながら新しい発見があった参加者も

11/9 【第10回人吉よさこい祭り】

九州各地からよさこいチームが集まり演舞を披露する「第10回人吉よさこい祭り」が開催されました。人吉のよさこいチーム「人吉よさこい銀翔会」と熊本県立大学の地域づくりに取り組む同好会「未来創土」でつくる実行委員会の主催。中川原公園をメイン会場とし、大橋や青井阿蘇神社、人吉クラフトパーク石野公園の4会場で開催しました。



43チーム約400人の踊り子が舞った

11/13 【人吉城跡に仮設階段と散策路設置】

人吉城跡から球磨川、胸川を石垣沿いに回遊できる仮設階段と散策路を、期間限定で設置しました。夜間は城跡をライトアップし、幻想的な景色を演出。普段は間近で目にすることができない川沿いの石垣を散策路から見上げ眺めてみるなど、特別な体験空間となりました。



フットパスのコースとしても活用された

雨庭の仕組みや効果学ぶ

流域全体の総合力で安全安心を実現する「緑の流域治水」。その取り組みの一つである「雨庭」の仕組みや事例を学ぶ勉強会を11月4日に市役所で実施しました。雨庭は雨水を一時貯留・浸透させる庭や空間のことで、洪水抑制や生物多様性向上などが期待できます。勉強会では、県職員が流域全体での取り組みを説明。大学や地元企業が整備効果を紹介し、流域治水の取り組みへの参画を促しました。

市では、雨庭を新しくつくりたい人を対象に補助金を支給します。受給資格など詳しくは市ホームページをご覧ください。



▲市ホームページ



◀スライドを使用しながら事例や雨庭の仕組みを説明



▶事業者や市職員ら約50人が参加

問合せ 勉強会について 市復興支援課政策調整係（☎22-2111 内線3116）
補助金について 市防災課防災係（☎22-2111 内線3241）

HITONOWA ACTION の経過を報告します

市が進める未来のまちづくりに向けた社会実験「HITONOWA ACTION」。10・11月は「集中実施月間」とし、集中的に実験に取り組んできました。その一部を紹介します。



妖怪文化の新たな拠点へ

鍛冶屋町通りにある小さな美術館「Chobit^{ちょびっと}」。同館で妖怪が登場する作品や人吉・球磨にゆかりのある漫画や雑誌などを展示する「妖^{あやかし}漫画館」がオープンしました。鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会とくまもとマンガ協議会、県内大学の学生らが企画したもの。事前に寄贈があった約230冊の漫画や雑誌を展示していて、妖怪好きにはたまらないラインナップです。

11月15日にオープニングセレモニーを行い、企画者の1人である鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会の立山茂さんは「金子大臣はじめ、市や県、大学生らの協力があってやっとオープンできた。今後も皆さんに愛される漫画館になるよう、アイデアをいただければ」とあいさつ。その後、関係者らで封印を解き一般開放されました。



▲金子国土交通大臣や松岡市長らが封印を解き、漫画館をオープン



▶本の設置デザインは熊本大学の学生が考案

問合せ 鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会（☎22-2566）

てんぐばし 天狗橋が復活！ 観光振興に期待高まる

令和2年7月豪雨災害で被災し、通行止めになっていた天狗橋が完成しました。同橋は、長さ192^{ふた}、幅員3^{ふた}の球磨川に架かる人道橋。国の権限代行で災害復旧工事が行われてきました。

11月15日に西瀬小で完成式を開催。式典で、金子恭之国土交通大臣は「生活道路としてはもちろん、アニメのモデル地でもある。今後は人吉球磨地域の観光振興にも寄与すると期待している」とあいさつし地元住民らと通り初めを行いました。

同橋はアニメ『夏目友人帳』のモデル地としても知られています。同日の午後からは県と市が夏目友人帳ファンらに呼びかけた開通記念イベントを実施し、抽選で選ばれた100人が参加。その後の一般供用開始時にも630人のファンらが橋に列を作り、にぎわいました。



◀夏目ファンはグッズなどを手に橋を渡った

▶橋名板には、中原小3年の大柿勝璃（しょうり）君が書いた文字を採用



問合せ 市道路河川課維持係（☎22-2111 内線2241）